

館報 教育記念館

No.86
平成28年3月 発行



第33回
特別支援学校
みんながんばってます
作品展

第46回
富山県造形教育作品展



主な内容

◎教育時評 「教員志願者減少に思う」 富山国際大学子ども育成学部 教授 水上義行	2
◎わが校の歴史からⅠ ★黒部市立三日市小学校 ★黒部市立前沢小学校	3
◎後期恒例展から 「みんながんばってます作品展」「富山県造形教育作品展」 「教職員厚生会退職厚生部富山支部作品展」「富山県中学校美術展」 「アイデア・ロボット・フェスタ」「版造形教育展 秀作回顧展」	4
◎わが校の歴史からⅡ、Ⅲ ★魚津市立片貝小学校 ★魚津市立西布施小学校 ★魚津市立吉島小学校 ★立山町立新瀬戸小学校	6
◎「学ぼう！ふるさと未来」支援事業実践活動報告会 平成28年度の展示計画 あとがき	8



発行所／公益財団法人 富山県ひとつくり財団 富山県教育記念館 〒930-0018 富山市千歳町 1-5-1
TEL (076) 444-2000 FAX (076) 444-2001 E-mail: toyama@t-hito.or.jp http://www.t-hito.or.jp
(教育記念館会議室ご利用の場合 ☎(076) 433-2770)
発行人／富山県教育記念館 館長 伏黒 昇 印刷所／いおざき印刷株式会社



教員志願者減少に思う

富山国際大学 子ども育成学部
教授 水上 義行

小学校教員養成にかかわって、8年目を迎えようとしている。38年間叩き上げてきた教師職を基盤に、学生たちと丁々発止でやり合いながら、教師の魅力を追いかけてきた。先日、4期生と最後のゼミ合宿に福井県の史跡巡見を行い、歴史を学ぶことが、人間教育の要の一つとなることを確認した。また、酒を酌み交わし、宴会の仕方や場の持ち方、思い出の作り方などを通して、組織の一員としての連帯感を深めるための最後の指導の機会とした。

私の研究室からは、短い者で1年、長い者で3年のゼミ生活を送り、20名が教諭として富山県・新潟県に奉職し、2名が一般公務員、1名が大学院で特別支援の研究、6名が臨任講師として学校現場に立つ。日頃から、学生たちには、互いに学び合い、高め合うためのコミュニティの構築が、信頼される教師への近道であり、上司や先輩、同僚と語り合い、認められることが重要だと説いてきた。

しかしながら、若い教師たちは、学校における居心地が必ずしも良いとは言えない状況にあるという。教師同士の語り合う場が少ない、価値観が多様化しすぎてまとまらない、研修旅行さえも実施されないなどと言った声が聞こえてくる。かけ声だけのチーム学校は、教師を目指す学生の減少に歯止めをかけない。

新聞報道によると、「公立小教員試験低調3.4倍」（2015,11,25読売）と、朝刊の一面を飾る。我が富山県においても、最近では3倍前後を推移する。教師は「全体の奉仕者」であり「聖職」とまで言われた誇りはどこへ行っ

たのであろうか。先輩たちが築いてきた伝統の灯を消してはいけないのである。

3倍前後の志願者は、資質の高い教員確保を図る上での危険水域である。このことを教員養成に当たる大学と学校現場は課題として受け止め、共有しなければならない。

なぜ、志願者が少ないのか、それは、「教師という職業・学校という職場に魅力がなくなった」からである。様々な課題を撥ね退ける、教育への情熱が消えかかっていると指摘したい。本学の学生が、教育実習やインターンシップのために、母校を訪ねると、受け入れてもらえないという信じられない現実がある。故郷を追われる学生は、どこへ行けばいいのか。教育とは何かを、原点に立ち止まって考えなければならない。

もう一つ上げるならば、「教師に時間と心のゆとりがない」ということである。終・修業式が終わるのを待ち兼ねて、「白馬」や「赤倉」に走ることでできる職場の復活を願いたい。パソコンの画面に向かい、時間を忘れ、黙してキーを打ち続ける職業から新しい時代を担う教師の育成は難しいと言わざるを得ない。

平成27年12月21日、中央教育審議会は、「教員の資質向上は、我が国の最重要課題である」ことを答申している。今こそ「温故知新」である。教員養成にかかわる全ての関係者は、このことを重く受け止めなければならない。

黒部市立三日市小学校



新たな一歩を

本校は、明治6年に「第二十八番小学」として創校して以来、「精荒学校」「三日市小学校」と改称しながら、142年の歴史と伝統を積み重ねてきました。その間、校舎も何度か移り変わり、現在の校舎は平成16年1月に移転・新築されたものです。間仕切りを移動することによりオープンスペースにできる教室、天井が高く広々とした体育館、地域の交流ホールとしても活用できる床暖房完備のランチルーム、自然とふれ合えるビオトープなど、恵まれた環境のもと、子供たちは、「元気で仲よくがんばる子」を目指して、学校生活を送っています。黒部市の中心部に位置し、市庁舎、児童センター等の公共施設や商店街、古くからの史跡等が校区内に多くあることも本校の特徴です。子供たちは、地域探検や地域の方々との交流活動を通して、自分たちの住むこの「三日市」に対する愛着を深め、誇りに思う気持ちを高めています。

本校の伝統の一つに、文集「さくらんぼ」があります。児童による詩や作文を印刷・製本し、冊子にまとめたもので、どの子も6年間に1度は作品が掲載されることになっています。昭和30年以前から休むことなく発行され、今年度3月に発行されるものは第72号となります。これまで本校を巣立った多くの卒業生がその時々思いを真剣に自分の言葉で綴り、発行され続けてきたこの文集は、三日市小学校の伝統であり、宝物でもあります。

今年度末、本校は閉校という大きな節目を迎え、4月からは、前沢小学校と統合して「桜井小学校」となります。創校の精神である「精荒」（知識を身に付けるだけでなく、自ら学習に励み立派な大人になること）の教えを忘れず、新たな一歩を踏み出していきたいと思います。

長い歴史に幕・統合 新たに「桜井小学校」に

黒部市立前沢小学校



「弘麗と智徳の精神」を受け継いで

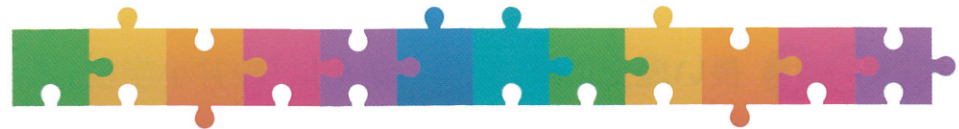
本校は、明治6年9月20日朝倉次平方に前沢学校として創校し、明治8年に「弘麗小学校」と改称されました。「弘麗」は「心や徳が広く、そして清らかで健やかな子供に育てほしい」という願いであり、前庭花壇にその文字が刻まれた大きな石碑があります。創校当初から今日まで「弘麗の精神」は大切に受け継がれてきました。

そして、「前沢小学校校歌」が昭和28年に制定され、昭和29年「黒部市立前沢小学校」と改称されました。校歌の作詞者は、戦艦「武蔵」第三代艦長であり、黒部市初代教育長の朝倉豊次氏です。「智徳のはなのにおうかな ああ我が前沢校に誉れあれ」という歌詞からは、前沢地区出身である朝倉氏の前沢小学校に対する深い思いが伝わります。

閉校となる今年度、「よみがえれ！前沢小学校校歌」を合い言葉に、校歌の二部合唱に挑戦しました。校歌制定の際に寄贈されたピアノの音色とともに、全校児童73名が奏でる美しいハーモニーによって、制定時の感動が再びよみがえりました。「智徳の精神」は、智徳の花びらが匂い出ずる様子に見える校章からもうかがい知ることができます。

また、今年度は「ありがとう前沢小学校」というスローガンの下、「名前+挨拶」で推進する挨拶運動と人権教育の重視、学校への感謝の気持ちを出す愛校心の育成、学力向上を目指しての主体性と自尊感情の育成に力を入れてきました。大運動会や夏祭りなど、地域の皆様と一緒に活動する中で、地域への感謝の思いも伝えてきました。

前沢小学校142年間の歩みに感謝するとともに、「弘麗と智徳の精神」をしっかりと受け継ぎ、次の一歩へとつないでほしいと願います。



後 期 恒 例 展



第33回 特別支援学校 みんながんばってます作品展

県内の特別支援学校に通う皆さんの作品282点が一堂に会しました。日頃の学習を通して制作された作品を一般の方とともに鑑賞しました。



第46回 富山県造形教育作品展

幼稚園・こども園・小学校・中学校・高等学校64校から、それぞれの年代の素晴らしい作品401点が集まりました。



第26回 富山県中学校美術展

県内の中学校から選ばれた211作品を展示しました。豊かな感性にあふれた秀作が集まりました。



第31回 退職教職員厚生部 富山支部会員作品展

書画・写真・手芸・盆栽など104点の力作が集まりました。



第11回 アイデアロボットフェスタ

チャレンジデーには、講演を聞いたり、ロボコンに参加した各校のロボットのデモンストレーションを楽しんだりしました。



版造形教育作品 秀作回顧展

昭和57年から昭和63年までの秀作版画64点を展示しています。



特別企画 版画カレンダー-新瀬戸小学校49年の歩み

全校児童で取り組んできたカレンダーを一挙に展示しました。



魚津市立片貝小学校



地域とともに

明治6年、片貝小学校の前身「島尻学校」創設以来、142年間に渡って地域文化の拠点としての役割を果たし、その時代の要請に応えつつ、数多くの人材を輩出してきた本校も閉校の時を迎えています。

校章に描かれた早蕨には、生き生きとした早蕨のようにすくすくと育って欲しいという地域の願いや期待、希望が込められています。本校はこうした願いに応えるべく、毛勝三山に見守られながら、清流片貝川のせせらぎと豊かな緑につつまれた自然を生かし、地域の温かい眼差しと団結力のある保護者に支えられながら、教育活動を展開してきました。

小学校と保育園の複合施設として建てられた木造風の立派な校舎と充実した施設・設備、「洞杉巨木群」「沌滝」「蛇石」に代表される豊かな自然や地域人材を活用したふるさと教育、地域から物心両面に渡る多大な支援をいただいている3年に一度の「東京社会体験学習」。これらの施設・整備や活動にはふるさとを愛し、広い世界を見聞きして、自分の夢や希望をもって歩んでほしいという地域の熱い願いが現れています。

校長室の棚には、文集『かたかい』が昭和48年発行の第1号から第53号まで並んでいます。「顔のうつらない心のアルバム」として、毎年、全児童の思いを綴ってきたものです。そこには、子供たちの喜びや感動、満足感、希望、そして家族や友達、地域への感謝の心が表わされています。この心こそが本校が実践してきた教育活動の成果であり、伝統と文化を物語る大切な宝物なのだと思います。

本校の歴史はこれで閉じられ、4月からは清流小学校として新たな歩みを始めます。片貝小学校の歴史と伝統、そして「ふるさと片貝」が、新たな一歩を踏み出し、成長していく子供たちの支えになっていくことを願っています。

長い歴史に幕・統合 新たに「清流小学校」に

魚津市立西布施小学校



ふるさと西布施は心の支え

本校は、明治6年11月、布施爪村に静亮小学校として創立、現在の地に小学校が建てられたのは今から約70年前、学校の名前が魚津市立西布施小学校となったのが今から約60年前。142年の長い歴史があります。学校の教育目標は「歴史と文化をもつ郷土を愛し、心身ともにたくましく、個性豊かな子どもの育成」とし、ふるさと学習を中心とした教育活動を展開しています。これまでの活動とその成果が認められ、平成25年11月、富山県より「ふるさと教育 とやま賞」をいただきました。

西布施地区は、魚津市の南部、雪絵で有名な僧が岳のふもとに位置し、746年開創と伝えられる寺院や縄文時代早期の遺跡が残る豊かな歴史や文化を有しています。

特色ある活動として、全校児童と地域の方で近くの野山に出かけ、山菜を摘み、その山菜を調理して味わう「山菜摘み、料理集会」を行っています。この活動は、昭和53年度より続いており、子供たちは、この体験活動を通して、春の訪れを実感し、西布施の豊かな自然を味わっています。また、江戸時代中期から伝わる「布施谷節」が今も引き継がれています。毎年、高学年女子児童が学習発表会や地域の行事等で、静かで心に染み渡る調べにあわせ、早乙女の姿となり踊りを披露しています。運動会では昭和41年度より「新布施谷節」として、全校児童、保護者、地域の方々が一つの輪となって踊ることで、地域の一体感を高めています。

地域にとけ込み、ふるさとへの愛着を高めてきた本校は、今年度末で閉校し、校舎も取り壊されます。子供たちが、これまで取り組んだ活動から、自分なりに育んでいる「ふるさと西布施」への思いを忘れず、生涯にわたって自分を支える「心の西布施小学校」をずっとずっと、もち続けてほしいと願っています。

魚津市立吉島小学校



ふるさととともに

本校は、昭和45年に加積小学校と天神小学校が統合し、吉島小学校として創立されました。校区は豊かな自然に恵まれた地域にあり、校舎の窓から望む毛勝三山の山並みや片貝川の清らかな流れは、今も変わらず四季折々の自然の美しさを感じさせてくれます。学校周辺には県内有数のりんごの生産地があり、子供たちは太陽の恵みを受けて日ごとに大きくなるりんごの生長を楽しみにしながら元気に登校しています。春に可憐に咲くりんごの花は本校の校章のモチーフとなっています。

本校では、社会科や総合的な学習の時間に地域の特産物であるりんごについて学習しています。長年、りんご生産に携わっておられる地域の人々との交流を通して、自ら課題を見付け、図書資料を活用したり農作業を体験したりしながら進んで課題を解決する力を育んでいます。そして、りんご生産に情熱を傾け、愛情を注いでおられる地域の人々の想いから、ふるさとへの誇りと愛着を深めています。

本校児童のふるさとの自然の美しさに感動する心や課題を見出し解決しようとする向上心は、このような豊かな自然と地域の人々の温かいまなざし等の地域の教育環境に支えられています。公民館活動やスポーツ少年団、ブラスバンド部の活動等にも積極的に取り組み、地域の中で多くの人々と交流することを通して礼儀や思いやりの気持ちを高めています。

平成28年4月から片貝小学校、西布施小学校と統合し、新たに清流小学校としてスタートします。それぞれの地域の自然や文化のよさを大切にしながら、多くの仲間とともに新しい歴史と伝統を作り上げてほしいと願っています。

わが校の歴史からⅢ

来年度から「休校」に

立山町立新瀬戸小学校



伝統を受け継ぐ

新瀬戸小学校は、明治6年に校区の上宮の満法寺に宮村小学校として創立されました。142年の歴史をもつ本校の特色は、古くからある伝統文化を、地域の方とともに本校の子供たちが受け継いできたことです。

その一つに、池田浄瑠璃があります。池田浄瑠璃は、池田城主のために約400年前に始まった村芝居です。一時途絶えていましたが、昭和62年にその台本が発見され、高学年の子供たちが上演するようになりました。浄瑠璃には特有の言い回しがあり、細やかな心の動きを言葉と演技で表現しなくてはならないため、完成するまでに長い時間がかかります。子供たちは地域の方々の熱心な指導を受け、伝統を受け継ぐ者としての責任と喜びを味わい、郷土への愛着を深めてきました。

また、昭和40年からスタートした版画カレンダー制作も本校を代表する伝統です。現在、学校には昭和43年以降の版画カレンダーが保存されています。始めは卒業記念作品として制作され、学校生活等の様子を表現していましたが、現在では池田浄瑠璃の一場面を版画にし、カレンダーにしています。子供たちにとっては、浄瑠璃の思い出がつまった小学校時代最高の作品であり、宝物となっています。

伝統を受け継ぎ、地域に支えられてきた新瀬戸小学校も、平成27年度をもって休校します。地域の方と触れ合い、伝統を受け継ぐことによって成長してきた子供たち。4月から新たなスタートをきることとなりますが、新瀬戸小学校で得た感動と喜びを誇りに、自分らしくたくましく歩んでくれることを願っています。

「学ぼう！ふるさと未来」支援事業 実践活動報告会

平成28年2月9日

入善町立ひばり野小学校

地域の文化や人に関わり、地域を愛する子供を育てる。
— 創立20年の伝統を受け継ぐひばりっ子—



七夕かざりを作ろう

富山市立岩瀬小学校

岩瀬っ子としての誇りを持ち、自ら考え、正しく判断できる力をもった心豊かでたくましい子供の育成。
— 地域との連携の中で—



まだら謡教室

富山市立船嶽小学校

地域の自然、人、産業と関わり、地域のよさと伝統を大切に継承しようとする子供を育てる。



舟倉用水見学

砺波市立庄東小学校

豊かな体験学習を中心に、いのちの教育を学ぶふるさと学習の展開。
— 独自の体験活動から、ふるさとに学ぶ—



レッドデータ研修会

南砺市立福光東部小学校

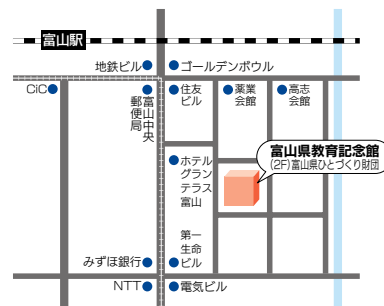
すてきな福光！
— ふるさとへの誇りと愛着をもつ子供を育てる—



行灯づくり

あ・と・が・き

3月で歴史を閉じる学校が多くあります。それぞれの歴史や思い出は、関係した人々の心に残るとは思いますが、館報にもその一端を残します。



平成28年度の展示計画

- | | |
|-----------------------------|---------------------|
| ◆特別展「郷土の先賢 群像展」 | 3月30日(水)～5月29日(日) |
| ◆第7回「児童・生徒による ものづくり展」 | 6月10日(金)～7月10日(日) |
| ◆特別展「梶田隆章氏 ノーベル賞受賞記念展」 | 7月15日(金)～8月28日(日) |
| 第14回「さんすうワールド展」 | |
| ◆第13回「子どもの目・自然不思議発見写真展」 | 9月2日(金)～10月2日(日) |
| ◆第32回「教職員厚生会退職生部富山支部会員作品展」 | 10月14日(金)～10月23日(日) |
| ◆第34回「特別支援学校・みんながんばってます作品展」 | 10月28日(金)～11月13日(日) |
| ◆第47回「富山県造形教育作品展」 | 11月19日(土)～12月4日(日) |
| ◆第12回「アイデア ロボット フェスタ・ロボット展」 | 12月10日(土)～1月15日(日) |
| ◆第27回「富山県中学校美術展」 | 1月27日(金)～2月12日(日) |
| ◆第10回「富山県版造形教育作品展・秀作回顧展」 | 2月24日(金)～3月26日(日) |